

大島海洋国際高校主催「大島ドリームプロジェクト」にての発表報告

伊豆諸島の6つの高校の学生が中心となって立ち上げた、地域活性化のための試み「大島ドリームプロジェクト」が、2008年7月23日、東京都立大島海洋国際高校にて開催されました。

私は昨年度、伊豆大島・波浮港地区にて実施した「社会人類学調査実習」に参加し、現地での経験や資料を基に、①伊豆諸島の若者に期待されていること ②現在までの各島の連携 ③伊豆諸島のこれからは必要だと思われること の3点について、シンポジウムでスピーチを行いました。

当時の調査実習メンバーなどにも協力を依頼し、調査成果やそれぞれの得た印象を総合的に盛り込んだスピーチの概要は以下の通りです。

*

これからの島の若者には、島を生活の基盤とし、内地へ対する迎合ではなく長期的な展望に基づいた、島としての主体的な価値判断が必要です。

日頃より築き上げられた島民の方々の堅固な結びつきは、非常時にも力を発揮するものです。協力して生活を営むための先人の教え〈線を引いたような仕事をしてはならない〉は、地区・島・伊豆諸島の各レベルにおける若い世代の活動に、深い示唆を与えることでしよう。

今後の伊豆諸島がとるべき方向性において重要となる要素は、現在の弱点である「交通の不便さ」を乗り越え、余りある利点を来訪者に享受するという点です。一定分野に特化し伊豆諸島を十分に活用できる学術的研究環境と、島外の人々に向け、島の社会が持つ相互の厚い信頼を中心としたアピールが有効だと思われます。

そして何より、次代を担う若者たち自身が島の特徴を認識した上で、常に問題意識を共有して島の活性化に全力で取り組むことが求められています。

*

大島の夏の陽射しの下、高校生の皆さんはレクリエーションで親睦を深め、シンポジウムで出身の島の特徴についてプレゼンテーションを行いました。それらを踏まえたディスカッションでの活発な議論は、プロジェクトへの真剣さを強く感じさせるものでした。

島々から「学ぶ」本学の大島プロジェクトが、島々に向かってその成果を「発信する」ことにより、両者のさらなる良好な関係への可能性を考える機会となりました。

首都大学東京 都市教養学部 都市教養学科
人文・社会系 社会学コース 社会人類学分野
4年 05152283 渡邊 淳